

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

長浜市立永原小学校
教諭 小椋 菜那

1. 単元名 「琵琶湖とわたしたちの暮らし」

2. 単元の目標

- ・フローティングスクールでの調査を通して、琵琶湖の水質状態や琵琶湖の恵みについて考えることができる。また、琵琶湖は昔から人々の生活と大きく関わっていることが理解でき、琵琶湖を守るための取組や自分にできることについて新聞づくりなどを通して発信することができる。

(知識及び技能)

- ・フローティングスクールでの活動や調べ学習を通して、琵琶湖と人々の生活との関わりについて気づいたり、琵琶湖の恵みを未来につなげていくために地域の課題を踏まえて自分たちができることを考えたりすることができる。

(思考力・判断力・表現力)

- ・琵琶湖がある滋賀県に住む一人として、琵琶湖の恵みについて調べ、これからも大切にしたいという考えをもち、未来につなげていくために自分たちができることを実践する。

(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、滋賀県に住む一人として、琵琶湖や地域を大切に思う心を養うために、地域社会の担い手意識や当事者意識を育てることを目的に、琵琶湖のよさを見つけ、琵琶湖を守っていくためにできることを考え、実践する学習を目指している。琵琶湖は、以前まではきれいな水であったが、1977年に淡水赤潮が発生した。水の変化の原因は、人口が増えたことや、人々の生活様式が変化し、多くの水を使うようになったことや産業の発達などが挙げられる。

その中で、滋賀県では対策として「富栄養化防止条例」を定め、「せっけん運動」に取り組んだ。他にも限りある湖を大切にする取組が行われ、水質が改善されている。しかし、現在でも、水の汚れや湖岸に散らばるゴミなどいろいろな問題を抱えている。

県内の5年生は「フローティングスクール」に参加し、琵琶湖について学んでいく。フローティングスクールは、学習船「うみのこ」に乗り、琵琶湖をめぐりながら、いろいろな体験を積むことができる。フローティングスクールでの体験を通して、今までの琵琶湖に対する思いを変え、琵琶湖がいつまでもきれいな姿であってほしいという思いを育てていきたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、1年時から地域学習として、地域で守られている「山門水源の森」を教材に学んでいる。1～3年時までの「山門水源の森」での学習を通して、山門水源の森の水が地元の大浦川を通り琵琶湖に繋がっていくことを学習している。4年時には、森林環境学習「やまのこ」で、森林に入り木や草花に触れたり、間伐体験や里山整備体験などの森林での体験をしたりしてきた。そこで、森林は空気や雨水をきれいにしてくれる力があり、森林がたくわえた水が琵琶湖を豊かにするということを学んできた。さらに、「水生生物」の学習では、地元の大浦川にすむ水生生物を観察し、きれいな水でしか生きていけない生き物について学習した。地元の大浦川が貴重な環境にあることを知ることができた。しかし、これらの自然や環境を自分たちの力で守っていこうという意識がない。「琵琶湖の美しさを守ることは、自分たちでもできる」ということに気づかせ、「わたしたちにできることは何か」を考えたり、考えたことを実践したりすることができるようさせたい。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず琵琶湖の水がわたしたちの生活の中でどのように使われているかを想起させる。このことを通して、琵琶湖の水は、昔から人々の生活と深く関わっていることに気づかせたい。その後、フローティングスクールに行き、水の透視度調査や琵琶湖に住む魚について調べる活動を展開する。その中で、琵琶湖の水の汚れや美しさを知り、これからどうしていけばよいのか考える契機としたい。次に、琵琶湖の美しさを守るために、県や地域でどんな取組が行われてきたか調べる活動を設定する。調べていく中で、琵琶湖を守るために様々な取組があることを理解させる。また、家の人や地域の人にインタビューをし、琵琶湖の水を守るための工夫や努力を理解させたい。最後に、琵琶湖の美しさを守るために自分たちにできることは何かを考えさせる。山門水源の水を美しいままつなげるためにや山門水源とつながる限りある琵琶湖の水を守り続けるために、生活の中でできる工夫を考え、児童自身が実践していこうとする態度を育てていきたい。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

【有限性】わたしたちは、水の恵みによって生活が支えられているが、琵琶湖の環境は、家庭排水やごみのポイ捨てなどの人の営みによって悪化すること。またその豊かさは失われてしまうということ。

【連携性】県や地域、市民が連携・協力しながら、琵琶湖の環境を美しくし、その美しさを保って海までつなげているということ。

【責任性】わたしたちの生活や取組が琵琶湖や川などの環境を悪化させたり、改善させたりする、そのため、自分たちの生活を見つめ直すことが重要であること。

・本学習を通して育てたいESDの資質・能力

【クリティカルシンキング】

昔の人々のくらしと今の人々のくらしを考えることを通して、自分たちのライフスタイルを変革していこうとする行動（琵琶湖に優しい生活の仕方）ができているか問い直す。

【協働的問題解決力】

グループや学級での話し合いを通して、自分たちにできることを考えたり、学びを地域と連携してや学年に発信し続けたりして、琵琶湖を守る活動についての意見をまとめる。

・本学習で変容を促すESDの価値観

【自然環境・生態系の保全を重視する】

琵琶湖に住む生き物について調べることを通して、たくさんの生き物たちが関わっていることに気づき、環境保全を尊重することの意義を考えることができる。また、自分たちの生活が環境に与える影響を理解するとともに、自分たちも環境の中で生活をしており、自然を守ることは自分たちの生活を守ることに繋がっていると理解する。

・達成が期待されるSDGs

目標14 海の豊かさを守ろう

目標15 陸の豊かさを守ろう

4. 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
様々な調査を通して、琵琶湖の水質や役割について分かったことを書いている。	琵琶湖の恵みを未来につなぐために自分たちができることを考えている。	自分にできることを考えて、仲間と協力しながら調査・行動を進めている。

5. 単元の指導計画

過程	○学習活動 ・児童の反応	○学習への支援	○評価
見つめる	○今までの総合の学習を想起する。 ○琵琶湖がわたしたちの生活の中でどのように使われているか、知っていることを出し合う。 ・地域の人や、京都・大阪の人の飲み水になっている。 ・魚がいっぱいできて、釣りもできるし、釣ったものを食べられるよ。 ・昔は、丸子船で行き来していたらしい。	○全校山門学習において、学習してきたことを振り返り、地元の川が琵琶湖とつながっていることを確認させ、興味を持たせる。 ○琵琶湖の水と生活を関連させ、自分たちの生活と深く関わっていることに気づかせる。 ○琵琶湖と人々の関わりは、いろいろな面があるが、「水」について注目させるようにする。	(ウ) 主体的
調べる	○フローティングスクールへ行く。 ○琵琶湖に住む魚やプランクトンについて調べたり、実際に見たりする。 ○水の透視度調査を行い、地元の山門水源の森の水と琵琶湖の北湖・南湖の水のきれいさを比べる。 ・山門水源の水ってとてもきれい。 ・琵琶湖の水は、北と南、昔と今できれいさが全然違うんだ。 ・山門の水のきれいさがそのまま琵琶湖行けばいいのにな。	○琵琶湖の源流の水と琵琶湖の水を調べることで、汚れやきれいさの違いに気づかせる。 ○どこで水が汚れてしまったのか、なんで汚れてしまったのかを考えるきっかけとする。	(ウ) 主体的
深める	○琵琶湖の水の美しさを守るために、滋賀県が取り組んだことについて調べる。 ○琵琶湖を守るために地域や身近なところで取り組んだことについて、地域の人や家の人にインタビューする。 ○環境を守るくらしについて調べる。 ・琵琶湖では、淡水赤潮が発生したんだね。 ・今のきれいな琵琶湖は決して当たり前なことではないんだね。	○琵琶湖でおきた問題とそれについての取組についてまとめさせる。 ○活動している写真を用意し、理解を深められるようにする。 ○「あおいびわ湖」の冊子を活用させる。 ○県の取組以外にも、環境を守るためにくらしの工夫ができることを知る。	(ア) 知識 (ウ) 主体的
広げる	○琵琶湖の美しさを保つために自分たちでできることは何かを考える。 ○学びを新聞にまとめたり、「学習発表会」で発表したりする。 ○学習を通しての自分の学びをふり返る。 ○自分たちでできること（クリーン活動など）に積極的に取り組む。	○これからもきれいな琵琶湖を保つための取組として、社会全体で取り組むことと自分たちでできることについて考えさせる。 ○今までの学びを整理し、発表することで知識の定着や深まりを目指す。	(ア) 知識 (イ) 思考 判断 表現